

# 上田紀行・東海学園大学特命副学長 インタビュー

前編

旧東京工業大学（東京医科歯科大学と10月1日に統合、東京科学大学に）の前副学長でリベラルアーツ（教養）教育の第一人者、上田紀行氏が4月、東海学園大学（名古屋市天白区）の特命副学長に就任した。理系の旧東工大で古代ギリシャ哲学に通じる「人を自由にする技」（リベラルアーツ）教育を実践、学生から絶大な人気を集めるなど名物教授として活躍した。「癒し」という言葉を広めた文化人類学者であり、主著「生きる意味」などの著作を世に出すとともに、全国紙の論壇時評、「朝まで生テレビ」等メディアでも活躍し、文科省中央教育審議会の委員等も歴任。「複線化人生が重要」と語る上田特命副学長に聞いた若者への熱い思いを前・後編2回（11月号、12月号）にわたって報告する。

（聞き手は塚本隆編集長）



## —東海学園大学の副学長就任から半年、率直な感想を。

**上田特命副学長** 私は愛媛大学に3年、東京工業大学に28年と、31年も国立大学に勤めましたので、私学は初めてです。高校生が少なく、特に規模の小さい私学にとっては、大変になっていることを痛感しています。名古屋大と岐阜大が同じ法人に統合されるなど地方の国立大学は統合していく方向ですね。私自身は、大学は経営が悪いからといって潰してはいけないと思っていますが、私学は年次計画を立てても、経営という意味で、バラ色の未来を描ける大学は日本にはないと思います。その中で東海学園大学は「ともいき」という理念を活かしつつ、斬新な改革を進めようとしています。

## —最近の学生気質をどう見ていますか。

**上田副学長** 学生相手に教えてみて思うのは、やはり昔と大きく変わってきていますね。例えば、私が東工大に赴任した28年前、学生がもうちょっと生意気だったと思います。先生の間違っているところを探し出して、厳しい質問をどんどん仕掛けてくるとか、ね。今はちがいます。

## —変化の要因は何でしょうか。

**上田副学長** 1990年初頭から大学は役に立

たんことばかりしている、即戦力を出せと言われてきました。その頃から早く役に立って利得を最大にする人材を生み出せという要望が強まり、90年代の中盤から2010年代の中盤ぐらいまでは専門教育重視になり、教養教育が軽視される時期が約20年続いたわけです。高校も文系と理系を早めに分けて、大学入試に出る科目を徹底的に学習する方向にシフトしました。学生は自分の成績や評価ばかり気にして、本質的な疑問を持たないようになっていきました。

## —名古屋の学生、地域の印象を聞かせてください。

**上田副学長** 名古屋の場合は、学生があまり外に出て行かない印象ですね。自分たちは名古屋で就職して仕事をしていくという意識がすごく強いと思います。いい就職先が多い、との考えがあるのではないのでしょうか。私は天白区に住んでいますが、家賃の安さには驚きました。給料がある程度あれば経済的な利得からは、名古屋に住むのは安定でしょう。東京はものすごい競争社会ですから、転職も多く、労働市場は流動化しています。名古屋の場合は、チャレンジするよりも安定を求めているという今の学生さんの気質にとっても合っていると思います。でも、悪い意味では、も